

第6回島田市総合計画審議会 会議要録

1 日時

平成29年4月26日(水) 19:00～

2 場所

島田市役所 4F 第三委員会室(南・北)

3 出席者

委員：秋田委員、朝比奈委員、石川委員、石間委員、小倉委員、後藤委員、佐久間委員、白瀧委員、杉本委員、鈴木委員、園部委員、谷委員、名取委員、村田委員、森委員

事務局：牛尾理事、鈴木市長戦略部長、田中戦略推進課長、駒形課長補佐兼政策企画担当係長、永野、今村、小野地方創生担当係長、大和田、太田原

ランドブレイン株式会社 植野

傍聴者 0名

4 内容

(資料確認)

・事務局より資料確認を行った。

(次第、事前配付資料1、2-1、2-2、3、別紙、当日配付資料)

(会長あいさつ)

・昨年度途中より交代させていただき、まだ慣れない部分があるかと思うが、委員様の貴重なお時間を使わせていただいているため、効率的に進めていきたい。今年度もよろしく願います。

(報告)

(1) 総合計画審議会委員の変更について

資料1に基づき、今村主事より説明

(秋田委員、石川委員、後藤委員)

・事務局職員の異動について

(永野主査、今村主事)

(2) 前回審議会の振り返り(人口推計について)

当日配付資料に基づき、今村主事より説明

【質疑応答】

副会長：前回指摘を受けての説明は結構であるが、今回のA4版で1枚のみの範囲ではどうかと思うということと、総合計画に入れる際にはどのような説明になるのか。図2の「社人研」の数字について、2025年での増減数など表示があればなお分かりやすくなるかと思った。

事務局：ご意見は参考とさせていただきたい。

(3) 基本構想の策定状況について（第5回総合計画審議会経過後）

資料2-1、2-2に基づき、永野主査より説明

【質疑応答】

A委員：資料2-1の施策体系、政策分野1の3つ目で「誰もが・・・」と謳っているが、括弧内が高齢者や介護の表記になっている。逆に限定しているなら、「誰もが」という表記にはならないのでは。

政策分野2の4つ目、「人材を育てる・・・」とある。人材の材は財産の財とする表現もあるが、どちらがいいと思うか、ご審議いただきたい。政策分野7の「安定的・・・」の所も同様。

政策分野2、子育ての所、「子育て・教育」となっているが、ここの教育というのは、子供に向けての教育がメインかと思うが、「地域の学び・・・」のくだりに大人の学習機会をつくる生涯教育という言葉を入れたほうがわかりやすいと思う。

政策分野5の2番目、島田を知り好きになってもらう、という表現が少し引っかかる。市民が主体的に好きになるような表現がいいのではと思う。

会長：今後の参考として検討いただきたい。

事務局：誰もがいきがいをもち、安心して暮らすという所で、元々は高齢者が、という出だしであったが、庁内の策定委員会において、高齢者だけなのか、という指摘をふまえ修正した経緯がある。一方、高齢者・介護のみでいいのか、高齢者だけが対象ではないという意味で、「誰もが」という言葉にさせていただく、というのが事務局側の提案である。どちらがいいのか再度事務局で検討させていただきたい。

人材育成に係る記載は「材」が一般的ではないかと思っているが、これについても再度検討させていただきたい。

「生涯教育」の文言も、うまく入れられるかどうか検討させていただきたい。

「好きになってもらう」の表現は、以前も議論になったと記憶している。島田以外の人にもPRし、移住定住につなげていくことの意味合いで用いていると理解している。

会長：何かほかにあるか。

B委員：資料2-1の政策分野1、資料2-2のP27で、「防災・福祉・健康」、「防災・健康・福祉」となっているが、どちらかに統一した方がいいのではないかと。

事務局：「防災・福祉・健康」とする。

A委員：政策分野1の「誰もが・・・」の表現は、「生涯を通し、だれもが・・・」という表現にしたなら、より分かりやすいと思う。

会長：高齢者・介護はそのままとして、ご意見も参考にさせていただければと思う。その他あれば、準備されている「用紙」にてご連絡いただきたい。

今回大きな確認は以前ご指摘の「大綱」という言い方から「政策分野」としたところであり、内容（文章）については引き続き練り上げながら進めていくということにより、よろしくお願いする。

（議題）

・基本計画策定に向けた作業構成について

資料3に基づき、駒形課長補佐より説明

【質疑応答】

会長：何かご意見があればお願いしたい。

副会長：資料2-1の政策分野4、環境・自然の所、（第1次）後期基本計画ではP26～27、大綱5に近い内容かと思ったが、資料2-1の「住みよい・・・」の中に防犯、交通安全とあり、後期基本計画では大綱2の「安全・安心」に入っているが、今回も政策分野1にあった方がしっくりいくような気がした。

事務局：今回の前期基本計画では、政策分野4、生活環境を社会環境と捉え直し、広く含めて考えている。ご指摘はご意見として承りたい。

会長：「環境」というのはなかなか厄介な表現ではある。ご指摘を踏まえて検討をお願いしたい。

C委員：資料2-1の「地域の特色を生かした・・・」のところでは第1次産業、「農林業」を1つにまとめられてしまうと、何か外へ出られなくなってしまうという気がする。第1次産業としてしっかりバックアップして、経済的に市政の方へ寄与する形をとっていただければ、市の土地利用に関して大きく問題の解決にも繋がるだろうし、政策分野4で言っている内容、環境、自然を守る事にもなると思う。そういう面で上手く表現していただきたいと思う。文章で表現するのも難しいのは理解するが、このような意見が反映できる箇所が何処かあるのだろうか。

事務局：現在資料２－１のような体系という形でご覧頂いているが、実際の内容はお手元の第一次後期基本計画P60以降の内容を今後基本計画として新たに出していくことになる。その中で、細かい説明や、他の分野と関連があるものは、再掲とすることもできるので、今のご意見をふまえ、今後表現していきたいと考えている。

C委員：あともう１点、計画の評価に固執し、成果を上げる（点を取る）だけにならないようお願いしたい。時代とともにいろいろなものも変化していく。その変化にも対応していく視点が重要である。

事務局：これから第２次総合計画前期基本計画のづくり自体をどうするか、考えていく必要がある。例えば市長は今の計画は厚過ぎるのもっと薄くしたいと考えている。一方必要な情報を漏れなく記載していこうとするのもっと分厚くなるかもしれない。そういった現在の計画構成を踏襲するのかどうかを含めて考え直していく。その時間をいただきたいところである。

A委員：現案の７つの分野は政策分野（縦割）が意識されているということで、資料２－２のP27のような模式図（イメージ）になっているが、市民にとってみれば「暮らし」は政策分野で割れるのではなくて、横断的に広がっていて、かつ時間軸とともに循環していくイメージがある。私達市民の生活を描くときに、この（一生の）サイクルという概念をもっと意識していただけたらと思う。

会長：例えば基本理念とか、計画の冒頭の部分に文章または図のようなものを入れ込む、というのもひとつの方法だろう。構想を作るにあたって念頭に置くことでもあるだろう。人の輪がつながって社会を形成していくということは理解する。

事務局：現計画の体系は市役所に様々ある業務をあてはめる形として分かりやすいものであるという考えである。今回も７つの分野というはあるが、資料２－２のP27の図のように他の分野とも繋がりあることを意識している。今回も前回同様、関連事項を再掲したりしていろいろな取組で成果をあげていくという考えはある。今のご意見もふまえて、そのあたりをもう少し表現できればいいと思う。もう少し検討させていただきたい。

副会長：前回計画策定時にも参加させてもらっているが、その際も分野単位で議論があって最後まで全体像が見えて来なくて、こうした進め方で良かったのかといった議論があったと記憶している。今回、向こう２か月でどこまでできるのか厳しいであろうが、やはり計画の全体像、政策分野１から７まで見えるような大枠、とその詳細という関係が見えるような資料があると分かりやすくなると思った。

事務局：ご指摘のように、できれば全体像をどのように見せていくか考えていきたい。

B委員：資料2-1、政策分野1の4つ目で、福祉・障害福祉とあるが、社会福祉という言い方で括れるのではないか。

事務局：内部でも議論して現案としているが、これについても今少し検討させていただきたい。

会長：私も少し引っ掛かった所だが検討していただきたい。ほかに特に無ければこれにて議題は終了としたい。その他について事務局より願います。

(その他)

- ・次回審議会開催について（7月の開催予定（後日日程の案内））
- ・資料事前送付の予定
- ・今後基本計画検討していくうえで財政面も合わせて検討していくことに留意（D委員）

以上

20：30 会議終了